

2021年度 小委員会活動成果報告

(2022年2月15日作成)

小委員会名	集落復興小委員会		主 査 名：鈴木孝男 就任年月：2018年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会		委員長名：神吉紀世子
設 置 期 間	2018年4月 ～ 2022年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災集落・地域における被害実態・復興過程を記録検証する。 ・被災集落・地域における居住地の復興計画、集落施設の再建、生業や住宅を含む社会的再建のあり方を議論し提言する。 ・被災集落・地域における復興計画を支援する。 初年度：災害に強い集落の調査研究と情報収集を行う。研究集会を企画実施。 2年度：被災集落等の調査研究、研究集会の企画実施。 3年度：被災集落等の調査研究、研究集会の企画実施。 4年度：補足的に被災集落等の調査研究の実施と研究集会の企画実施。		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有		
	主査：鈴木孝男(新潟食料農業大学) 幹事：菊池義浩(仙台高等専門学校)、友淵貴之(宮城大学) 委員：岡田知子(西日本工業大学)、山崎寿一(神戸大学)、後藤隆太郎(佐賀大学)、田中暁子(後藤・安田記念東京都市研究所)、浅井秀子(鳥取大学)、佐藤栄治(宇都宮大学)、澤田雅浩(兵庫県立大学大学院)、三笠友洋(西日本工業大学)、本塚智貴(明石工業高等専門学校)、下田元毅(大手前大学)、林 和典(大阪大学大学院)		
設置WG (WG名：目的)			
2021年度予算	160,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3回(7/2小委員会、9/2幹事会、3月幹事会)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. 研究協議会：東日本大震災の復興から見える一次産業の持続モデル 『農村計画部門研究協議会資料：同上』 参加者数 66名
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2021年度大会(東海)農村計画部門研究協議会の実施し、東日本大震災の復興から見える一次産業の持続モデルについて、当事者、研究者の主題解説と討論により農村計画に求められる知見を整理・発信することができた。 2. 小委員会活動の蓄積を社会発信するために、機関誌『ニューライフ』に「災害としなやかに付き合う知恵」をテーマに連載している。2021年4月号「アガリヤ ―水に対峙する離れ」(林)、5月号「伝統的民俗芸能と災害」(岡田)、7・8月合併号「住宅が密集する沿岸部の市街地・漁村における火災への備え」(鈴木)、9月号「山であそび、集落をまもる ―平成26年豪雨からの復興をすすめる丹波市北岡本」(澤田)、10月号「津波の記憶を継承する ―田老の防浪堤」(田中)、12月号「城

	<p>下町都市の水路網と浸水への備え」(後藤)、2022年1月号「水のカタチ」(下田)、 2・3月合併号「災害の記憶と生きる地域のカタチ」(友淵) 以上、コロナの影響により予定していた合同による事例踏査は中止となったが、 研究協議会は実施することができた。当初の目的は十分に達成されていないが、 次年度以降も体制を新たに活動を継続していきたい。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none">1. コロナ禍でのフィールド調査、研究交流等の実施に関する制約2. 研究予算の確保